

来街者の地区内回遊行動を誘発する要因に関する研究*

A Study on Factors of Induced Excursion Action of Visitors to the Area *

山下 良久**・内山 久雄***

By Yoshihisa YAMASHITA**・Hisao UCHIYAMA***

1. はじめに

我が国の大都市圏においては、鉄道は主要な移動手段の一つであり、多くの人々が駅を利用している。そのため、ターミナル駅やその周辺地区は、非常に利用価値の高い場所として、商業施設や業務施設が集積している。最近では、特に大都市のターミナル駅やその周辺地区において大規模開発が活発化しており、駅およびその周辺地区の高度化、高密度化はさらに進むものと考えられる。

郊外部のターミナル駅においても、駅および駅周辺地区の高度化、高密度化は進められている。都心部との大きな違いは、デパートや複合施設といった集客施設数が都心部ほど多くないこと、それらが複数あったとしても駅から数分の位置に配置されていることが挙げられる。そのため、買い物や食事といった目的で訪れる来街者は、その目的を駅近辺で済ませることができる。しかし、言い換えれば、来街者はその地域の隠れた魅力や風土・文化などに触れる機会を失っていると言える。

郊外部地域の中には、様々な文化遺産、歴史遺産、景勝地等が保存されている地域がある。これらの自治体は、ホームページにおいて、観光スポットを紹介し、住民や来街者にアピールしているが、観光都市にあるようなものと比較すると規模は小さく、認知度も低いため、このようなスポットを訪れることを目的とした来街者はそう多くないと思われる。しかし、何らかの仕掛けや情報提供を行なうことで、買い物等の目的で訪れた来街者がこのようなスポットまで足を伸ばす可能性はあると考えられる。人の

*キーワード：観光・余暇，地区計画，意識調査分析，誘発需要

** 正 員，修(工)，東京理科大学 理工学部 土木工学科 助手

〔千葉県野田市山崎2641
TEL 04-7124-1501(内線4018)，FAX 04-7123-9766〕

*** 正員，工 博，東京理科大学 理工学部 土木工学科 教授

流れ(回遊行動)が地区内に生じれば、そこで消費活動等が行なわれる可能性があり、地域活性の一因になることが期待できる。

そこで本稿では、東京圏の郊外地域を対象として、アンケート調査を実施し、来街者の回遊の可能性とそれを誘発する要因について分析を行なう。なお、現時点では、研究の全体構成、スケジュール、調査方法等を検討している段階であり、本稿においては具体的な考察や分析結果等を示すまでに至っていない。今後、調査、分析を実施し、発表時にはその結果を提示する予定である。

2. 対象地域

対象地域として埼玉県の東南部に位置する草加市を取り上げる。草加市は、江戸時代、日光街道の第二の宿場町として栄え、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅で草加宿に歩みを残したのをはじめ、伊能忠敬・渡辺崋山など多くの文人らが通行したことで知られている。現在では、草加せんべいやゆかた染め、皮革製品等の地場産業が有名である。

市内には、東武伊勢崎線の駅が4つあり、その中心駅である草加駅の東口駅前には、再開発事業として大規模商業施設「アコス」が平成4年にオープンした。現在、2つの店舗が店舗し、平日では約2.6万人/日、休日では4.3万人/日(参考)が来店しており、県東部地区の最大商業地域となっている。草加駅から300mほど東に行くと、旧日光街道があり、その沿道には約1.5kmにわたる松並木(草加松原)が現存し、遊歩道が整備されている。この松並木は「日本の道100選」や「遊歩百選」，「利根川百景」に選ばれているが、その認知度はそれほど高くない。



図1 草加市の位置

(引用：草加市HPより)



- 草加駅
- アコス広場
- 歴史民族資料館
- おせん茶屋
- 東福寺
- 神明寺
- 札幌河岸公園
- 矢立橋
- 草加松原
- 百代橋
- 草加文化会館
- 甚左衛門堰
- 八幡神社

図2 草加駅周辺の観光スポット

(引用：草加市HPより)



図3 草加松原遊歩道

(引用：草加市HPより)

3. 調査対象と調査方法

調査対象としては、草加駅での降車客、松原団地駅での降車客、アコス利用客を考えている。これらの対象者に対し、草加松原等の観光スポットに関する情報を提供するとともにある種のCS調査（顧客満足度調査）を実施する。情報提供の方法としては、駅構内広告、広告の配布、構内放送等を考えているが、現在検討中である。CS調査では、観光スポットに対する認知度や満足度に関する質問を行い、来街者や地元住民の観光スポットに対する満足度の構成要因やまだ顕在化していない欲求（ウォンツ）を明らかにする。アンケートは、2駅およびアコス周辺と観光スポット周辺でも配布することを考えている。

参考）草加市資料をもとにデータを整理した。なお、ひとつの店舗は平成15年2月～平成16年1月の1年間のデータであり、もう一方は平成13年7月のある1日のデータである。年間データを日換算し、合計することで算出している（年次の違いによる補正等は考えていない）。

参考文献

- 1) 快適都市の旅は続く 草加市勢要覧2002.
- 2) インターシティ研究会：駅とまちづくり,学芸出版.
- 3) 三澤他：地域ITSが観光誘発交通へもたらす効果の把握,土木計画学研究・論文集 Vol.20, pp.455-461, 2003.
- 4) 初山他：東京における「都市情報誌」に登場する広域集客型エリアの商業的特性に関する研究,第37回日本都市計画学会学術研究論文集, pp.13-18, 2002.
- 5) 岡田, 中井：都市観光から見た都心商業地の発展条件に関する研究-東京23区を対象とした観光ガイドブックおよびレストランガイドを用いた分析-, 第38回日本都市計画学会学術研究論文集, pp.583-588, 2003.